

馬居教授 静岡県立大学 集中講義 学生の作品への感想 (敬愛大生)

1～10

1

静岡県立大学の学生が作成した「総合的学習の時間」の8つのグループ作品をみた。

どれも共通して言えることは、どれも難しい社会に溢れている問題である。私たちの身近に存在する内容を自ら設定することで、やりがいと興味・関心の意欲が求められる。答えがはっきりとしていない問題だからこそ、人それぞれの考えや思いがあって、様々な視点から考えられる。自らテーマに対する情報を調べることで情報収集をすることができ、知識としてテーマの内容を理解することができる。

また、第三者が理解できるように、様々な視点からの情報提示をしながらもわかりやすく簡潔に理解できるように、内容をまとめている。そして社会問題がもっと身近に感じやすくなるように、改善策を具体的な例にして考えている。調べるだけでなく、そこからどのように解決するのかをそれぞれ考えることで探求的な学びになる。

これらの学習内容は、ただ知識を得るだけでなく、理解力や表現力など学びに向かう力が身につく学習内容である。

2

私は、大学で総合的な学習の時間の指導法において、市川先生の講義を受けた。その中で私たちが一度、この過程を実際に体験したが、少人数のクラスだったこともあり、グループでの話し合いよりも1人、または2人組での研究をした。

今回の他大学のグループ作品を見て、感じたことは、どの作品においても「全員の意見を入れること」「現代社会に関わるテーマ設定」「研究した結果、自分たちにできること」をパワーポイントの中に含めていた。大学生においても設定したテーマにおいて夢中で話し合える内容になっていたところや、グループの中での多様な意見に触れること、それを否定せず、全部を成果に交えることで、視野が広がる内容になっていたことを感じる。

「総合的な学習の時間」は、どのような内容をどのように授業に取り入れるかが学習指導要領をみただけでは捉えにくいなということを感じていたため、このような事業実践を自分たちが取り入れる前に一度やってみるという過程が大切だということを感じた。

3

日本の貧困—私はこのグループは調べたデータからの考察がよくできているなと感じた。食については、困窮層がコンビニ弁当が多いことから野菜の摂取頻度が少ないというデータから、食事パターンが単一で食に対する関心の低下や食文化の継承などの面で問題が出てくるとあった。コンビニ弁当が多いから栄養が取れないというありきたりな考察ではなく、食事への関心の低下など客観的な考察ができていてすごいなと思った。このような客観的な考察があると説得力があるなと感じた。

4

8グループどれも、とても興味深い内容で、大変勉強になりました。8作品拝見させていただいて気付いた、率直な感想を2点述べます。

1点目に図・イラストを有効活用すると見やすいなと思いました。私は8グループ目の作品が非常に見やすく、内容が頭に入ってきました。テーマや内容にあったイラストを適宜入れたり、閲覧者に1言で問いかけるスライドがあったりしたことが印象深いです。生徒に取り組ませる際も、受け手のことを考えて作品は作らせたなと思いました。

2点目に研究の動機を述べていたり、研究内容・方法まで記載があったりしたので、そのグループの方たちが何に問題を見出し、どのような思いをもって作品作りに挑んだのかまで知ることができ、大変勉強になりました。

3点目に調べたことを通しての「考え」を持つことが重要だなと思いました。論理的思考能力の育成にもつながりますし、課題解決能力にも関連すると思います。このような作品を生徒に作成させる際、ただ調べたことを羅列したものにならないようにすることも重要な観点だと思いました。

以上が8作品を拝見しての感想です。8グループの方の作品の拝見を通して、生徒にもし取り組ませるとしたら…と想定することができました。

5

静岡県立大学の学生が作成した「総合的学習の時間」の8つのグループ作品をみた。

どれも共通して言えることは、どれも難しい社会に溢れている問題である。私たちの身近に存在する内容を自ら設定することで、やりがいと興味・関心の意欲が求められる。答えがはっきりとしていない問題だからこそ、人それぞれの考えや思いがあって、様々な視点から考えられる。自らテーマに対する情報を調べることで情報収集をすることができ、知識としてテーマの内容を理解することができる。

また、第三者が理解できるように、様々な視点からの情報提示をしながらもわかりやすく簡潔に理解できるように、内容をまとめている。そして社会問題がもっと身近に感じやすくなるように、改善策を具体的な例にして考えている。調べるだけでなく、そこからどのように解決するのかをそれぞれ考えることで探求的な学びになる。

これらの学習内容は、ただ知識を得るだけでなく、理解力や表現力など学びに向かう力が身につく学習内容である。

6

私は8Gの作品を見た感想を述べる。私自身もゼミでSDGsのジェンダー平等について考えていたので、ジェンダーについてまとめているこのグループを選んだ。

総合の時間でジェンダー教育を取り入れることで、ジェンダーの現状から問題点を考え、改善しようとする姿勢が身に着けられる。その経験が社会に出てジェンダーの違和感に気

づき、正していくきっかけになるので、私自身も教師になった際に行いたいとこの作品を見て改めて感じた。ジェンダー教育の必要性や留意点もまとめており、8Gの内容を自身に完全にインプットできれば、現場でジェンダー教育を効果的に行うことができると感じた。

また、各指導内容について、小学校では将来の夢、中学校では制服やアニメ、高校では職や女性専用車両といった社会の事例を挙げてあり、学年の興味・関心にあっており、適切な難易度を設定できていると感じた。

もし、私が小学生の指導内容を考えるのであれば、ランドセルの色や好きな遊びなど学校にあるもの、学校であることを例示として取り上げることで、より身近に感じやすくなると考える。

7

静岡県立大学の学生の作品を見て、研究の目的や課題が明確に記されていると感じた。また、ただ調べたことから分かった結果をまとめるのではなく、その結果から自分たちが話し合ったことや何を考えたのかを具体的な内容で分かりやすく、その研究を通して深く学習したということが伝わってきた。

総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、探究的な見方、考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標としている。

彼らの作品はこの目標に沿っており、児童生徒を指導する際には学習のプロセスに重点を置くべきだと感じた。そうすることで、総合的な学習時間に身に付けた探究的な学習の過程が、自ら社会問題について考える時や他の学習、さらに社会に出た後にも活かすことができ、生涯学習に役立てられる力になるのではないかと思う。

8

私は貧困問題の1Gを読みました。普段はあまり触れることない問題ですが、よく考えてみるととても深刻な問題だということがわかりました。

当たり前のように生活ができなかったり、食や飲み物なども手に入れないという状況の中でそういう人たちをどのように助けていけるかを考える良いきっかけになりました。資料を読んで生活保護などの手当があることをしり、もし自分がそういう立場になってしまった場合は利用をしようと思いました。

災害や病気などで資金を失う場合もあり、誰にでも起こりうる問題だと感じました。そうなった時に困らないようにある程度知識を身に付けたり、そういう人たちに対しては接し方や、募金を行うなどして少しでも援助をしたいと思いました。

9

静岡県立大学の学生さんのパワーポイントを全て見させていただきました。どのグループ

も簡潔にまとまっており素晴らしいなと感じました。

特に私が気になったのはグループ5の「防災教育」です。3人の人たちが協力してプレゼンをしたのが伺えるしとてもわかりやすいと感じました。また具体例が細かく書いてあり、学生の私でも理解しやすかったです。実際にプレゼンを聞いてみたいなと思いました。

10

私は、4Gの「SDGsと私たちの関わり」を見ました。実際に、私達もゼミの時間で班ごとにSDGsについての発表をし、私達にできることや関わり、今の現状などをたくさんしらべました。

この発表スライドを見て、SDGsで問題とされていることは、わたしたちにとっても身近なことであり、協力できることも実はたくさんあるということに改めて気づかされました。また、24スライドの「自分たちができること」というところで、「学生が得意とするSNSやサイトの立ち上げを通して、募金を呼び掛ける。」という案がありました。これは自分でもできそうだし、面白いなと思いました。現代の学生はインスタグラムやツイッターなどSNSを多くの人が利用していると思います。SNSでの拡散は学生にとって簡単なことですし、特に、若者にSDGsについて知ってもらうことが大切だと思うので、幅広い人たちの目に入るSNSでの募金の呼びかけは、現代的でとてもいい案だと思いました。